

# AI活用研究を報告

## 発電技検がシンポジウム

発電設備技術検査協会(JAPEIC)、濱谷正忠理事長は2日、「NDE(非破壊評価)シンポジウム2019―構造健全性と非破壊評価」を都内で開催した。テーマは、発電設備の非破壊試験・計測へのICT、人工知能(AI)の活用。講演や調査・研究の成果報告を通じて、この分野におけるICTやAIの潜在的な可能性や、現在進んでいる取り組みについて、専門家が情報を共有した。

同シンポジウムは技術者の交流の場として毎年開催されており、

講演で非破壊検査でのAI活用について話す中畑教授



今回で12回目。電力会社やメーカー、研究機関、検査機器会社などから幅広く参加者が集まった。基調講演を行った愛媛大学の

中畑和之教授は、非破壊検査の分野でAIの導入を進めるには「データの質や量の確保が重要」と説き、データ共有や情報交換の仕組みづくりが必要と訴えた。

このほか、徳島大学の西野秀郎教授がAIを用いた配管減肉測定の試みについて説明。また、JAPEICからも4件の成果報告があった。